No.9 たにがしらっ子だより

令和６年８月８日(木)
金丸恵美子

『お盆が来ますね』

今年もまた、お盆がやってきますね。家族や親せきが集まってにぎやかなお休みになるのではないでしょうか。この頃は初盆を迎えられるところも家族だけで行われるところがほとんどですね。こども園でも「お盆」と言うことばが、良く出るようになったこの頃です。

先日４歳児(ゆり組)の男の子が、トンボを捕まえて見せに来ました。どうやって捕まえたのか、トンボの種類などのやり取りをしてからそのトンボを逃がしてあげるように伝えました。お盆の前に飛んでいるトンボは「背中に死んだ人をのせている」、「亡くなったじいちゃんやばあちゃんが、トンボに乗ってみんなに会いに来る」などの話をしたところです。するとそのこが「ぼくのひいじいちゃんも死んだんだよ」と教えてくれました。そして私から聞いたことを友達に、神妙な表情で教えていました。ひとりの女の子が「ゆり組の時も園長が言ってた」と昨年のことを覚えていて会話に加わっていました。

「お盆になるとトンボが亡くなった人を背中にのせて帰ってくる」間違いなく迷信でしょう。しかし、祖父からそして両親から聞いたその話を次の世代に伝えたいと思います。園のこども達もそうです。祖先や亡くなった方々におもいを馳せ、小さな手を合わせる経験をさせて欲しいと思います。

この時期は、原爆投下祈念日や終戦記念日などしめやかな報道がなされます。また、災害で被害に会われた地域のニュースも出ることでしょう。たくさんの命の上に、私達が生かされていることを思いながら今年もまた、お盆を前に考えています。

『特権と言う考え方』

念願のプール開きをこの１日と２日に５歳児(すみれ組)さんと４歳児(ゆり組)さん、それぞれで行いました。プールの周りに集まって塩や米、焼酎をまきながら、水の事故にあわないように祈願しました。少しの水たまりでも死んでしまうことや用水路や川にこどもだけで近づかないこと。水は気持ちが良くて楽しいけど命を落とすこともある。人が生きていく上で必要なものが水。無駄にしてはいけないことも話し方でした。

プールに入れるのは、４歳児と５歳児だけです。これは、特別なことなので谷頭こども園では、「特権」と言う考え方をしています。他にも５歳児だけは金属の大人用スコップが使えたり、水族館や観劇に出かけられたり…それを縦割りのクラスの中で「いいな…」と年下のこどもたちは見ているはずです。だからひとつずつ大きくなるたびにこれまでは、できなかったことや行けなかったところに行ける。その喜びや楽しみが大きくなるのです。

それまでは、あこがれて見るだけだったことが、実際にやってみるとのこぎりや金槌が上手く使えたりします。もちろん油断をしてけがをする時もありますが…

こどもが主体の保育に変えてから、この『ただ見ているだけ』の年月がいかに大事で、『ただ見ているだけ』ではなかったことに驚かされます。しっかりそのスキルを上の子からぬすんでいるからいざ、解禁になった時に上手く使えるのです。

『木を植えるということ』

今夏のこの熱波で、６月の半ばに植えた庭の木々が弱っています。特に幼木は葉っぱが黄色く枝も下を向いているように見えます。

木を植えてからしばらくたったころ不要な枝などを整理して切っていると男の子たちが「何で切るの？」と私の作業を追いかけてきました。この前植えたばかりの木を切っていたので不思議だったのでしょう。

１ 本の大きな木にするには、不要な枝や幹を切って栄養がたくさんいくようにしていることなどを語りながら作業をすることでした。植えたばかりでは、木は大きくならず「手入れ」が必要なこと。「みんなが小学校を卒業するころには、木登りができるくらい大きくなっているかもね」そんな話をしながら木と共に成長していくこども達を想像するだけで、元気がもらえる夏の朝でした。